

プロ仕様プリアンプEAR912を 民生用モデルとして再構成

Text by 井上千岳
Chitake Inoue

PRE AMPLIFIER

EAR EAR 868PL

¥1,029,000(フォノセクションつき)

Profile

イギリスのケンブリッジにエンジニアのティム・デ・バラヴィチーニによって設立されたEAR。同ブランドのプリアンプにおけるフラッグシップとして確固たる人気を誇る「EAR 912」のサーキット、真空管、トランスフォーマー、及びMC昇圧トランスを含むフォノセクションを惜しみなく投入したのが本機である。真空管にはPCC88(7DJ8)を4本使用しており、真空管トランスカップリングという独自の技法が組み込まれている。

ありがちな柔らかさや
倍音の強調感が全くない

EARを主宰するティム・デ・バラヴィチーニの最高傑作と言われるプロ仕様プリアンプEAR912を、民生用モデルとして再構成したのが本機である。フォノモジュールの有無によっていくつものタイプが用意されているが、基本的には増幅にPCC88(7DJ8)を採用した管球式のプリアンプといつていい。

EARの場合、回路構成や使用真空管よりも、トランスの設計を重視する。真空管に合わせたトランスを自ら設計し、それを回路の要として音を作り上げるのである。ティムがトランス設計の達人

と呼ばれるのは、そうした設計姿勢によるものでもあるようだ。

試聴機はMM/MC対応。MCに対しては大型の昇圧トランスでレベルを整えている。また入出力にはXLRバランスも装備する。

この音を聴くと、管球式にありがちな柔らかさや倍音の強調感が全くないことに気がつくはずだ。同時にソリッドステートとも明らかに異なる。輪郭が明瞭でディテールが極めて精密であることが、その大きな特徴といつていい。レスポンスが均一で立ち上がりに弱さがなく、細かな余韻やディテールの凹凸が深い。エネルギーが隅々まで充満した印象で、それが他の追従を許さない存在感を生み出しているのかもしれない。



フォノセクションのついた868PLは、MM/MCをスイッチで切り替え可能

Specifications

- 入力:RCA×5、XLR×1、PHONO×1 ●出力:RCA×2、XLR×2 ●フォノセクション:大型MC昇圧トランス内蔵、ノイズ=-80dB(IHF) ●入力感度(1V out):2.2mV(MM)、0.24mV(MC)、200mV(Line) ●最大出力:5V into 600Ω(RCA/XLR) ●インプットインピーダンス:47kΩ(MM)、40Ω(MC、4Ω/12Ωを工場セッティングにて選択可)、47kΩ(Line) ●使用真空管:PCC88(7DJ8)×4
- サイズ:380W×100H×305Dmm ●質量:10kg ●取り扱い:ヨシノトレーディング株

使用機材

- CD/SACDトランスポート/アキュフェーズ DP-900 ●DAコンバーター/アキュフェーズ DC-901 ●パワーアンプ/アキュフェーズ A-65 ●スピーカーシステム/モニターオーディオ GX300

試聴ソフト

- 「ジュビレーション/八城邦義プロジェクト」ウディックリク CD-1008 ●「カネンス/アウラ」toera classics TEAR-2 他